藍本から相野分水界・大川瀬ダムを歩く

第 109 回武庫川エコハイク
20160514 エコグループ・武庫川

武庫川　全長 65km、流域面積 500km^2、篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門（むこみなと）」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は篠山市にある。篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川渓谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22（2010）年 10 月、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

JR 藍本駅　相野駅、広野駅とともに明治 32(1899)年当時の阪鶴鉄道の三田駅から篠山口駅までの延伸にともない開業。相野駅はテクノパーク、加東市今田への玄関口。

藍本庄宿　江戸時代の丹波街の往還の要衝にあたり、藍新町の名が出たところで、夜に日をついで駅鈴の音が聞こえ、紅灯のもと、弦歌の絶えることなく栄えたといわれる。孝徳天皇 647 年が藤原鎌足に命じて藍の種子を本庄地区に蒔かれた。栽培地は相野、広野まで広がり、藍の本として藍本と呼ばれた。

丹波杜氏と旧街道　「灘の生一本」と江戸時代にもてはやされた灘五郷の酒造りには、丹波の酒造りの職人「丹波杜氏」の存在は欠かせない。秋の刈り取りが終わるころ丹波から稼ぎに出て、春には酒造りを終えて稼ぎと土産話を手にこの日出坂を越えていった。行き帰りには酒の神である酒滴神社に参り、藍新町の宿屋は賑わったという。日出坂は酒滴神社の幣（しで）坂がなまったものといわれ攝津と丹波の境である。

大きな転石　酒滴神社から街道を少し下った所にある大きな転石は、虚空蔵山の裏側の大川瀬から飛来したといわれ、また住吉神社と酒滴神社が喧嘩して住吉神社が投げた石とのいわれもある。その後大川瀬との往来が絶えていると言われる。酒滴神社はヘビの神様、住吉神社はカエルの神様。

酒滴神社　貞観年間（859～877）疫病が流行したとき、村人の夢の中にスサノオノミコトと名乗る童子が現れ、山中に湧く霊水を教えた。その霊水を飲んだ病人がたちどころに治ったことから信仰を集めた。第 1 鳥居の石造鳥居は応永 2（1395）年造立で県下最古のものとされ、宝塚市の波豆八幡神社と同じ形式で波豆の石工が製作したものと考えられている（県指定文化財）。また神社には算法額が奉納され県下最古のものとされている（市指定文化財）。

三田市最古の道標　市内で年号のわかる最古の道標が郵便局前の踏み切りのガードレールの端にある。「元禄五歳」とあり 1692 年を示す。巡礼の道標で播磨の清水寺へのもの。

武庫川の大迂回　地図で見ると武庫川はまっすぐ南下するのかと思われるがここで大きく東へ迂回し流れる。なぜでしょうか。

いぼころり地蔵　秋谷地蔵とも呼ばれる。かって貧しさから村から追い出された親子がここで七色の野菜の雑炊をめぐまれたがなくなった。地蔵を建てて手厚く葬った。その後村人にいぼのあるものはなおり、子宝にめぐまれない夫婦は子どもを授かったという。これから七色の品を供えるといぼが取れたり、子宝を授かったという。

洞窟兵器工場廃墟　ここから南の谷に入ると旧陸軍の大阪陸軍造兵廠の疎開先と思われる地下工場跡の地下壕がある。近くの藍国民学校が造兵廠の疎開先だったことから真実味がある。三田市は文化庁の近代遺跡調査に戦争遺跡として回答している。

藍小学校　昭和 10（1935）年創立

相野　往古応神天皇と従臣らがこの地で会ったことから相野となったという。

相野川　西相野に源流を発する武庫川の支流、広野で武庫川に合流する。起点は JR 相野駅の藍本駅寄りの JR 線沿いにある。延長 4289m の 2 級河川。河川は 3 面張りの上堤防の法面までコンクリート張りの「５面張り」草刈不要の人工河川である。

武庫川と加古川(東条川)の谷中分水界　武庫川と加古川の支流東条川の谷中分水界は相野北部にある。これは上流田松川の谷中分水界と同じく対応する河川の河川勾配の大小によるものと考えられる。川の名前に「加古川」とつけられた小川が東条川とつながる。相野川の河川勾配は緩やかで、対する加古川は池尻川となって東条川に注ぐ。東条川は三田市大川瀬地区にある大川瀬渓谷（県立清水東条湖立杭自然公園）があり、河川勾配の差が大きい。大川瀬渓谷の上部には国営大川瀬ダムがあり、農業用水、水道用水用のダムである。また藍小学校南のJR線沿いに武庫川と東条川との谷中分水界がある。

東播用水路　川代と大川瀬ダム水を東播地区に送水する水管橋(開渠)が県道をまたいでいる。

大川瀬　旧有馬郡。加古川の支流東条川の流域。三田市で武庫川流域でない唯一の地域。地名は地形によるといわれる。

清水東条湖立杭県立自然公園　虚空蔵山（こくぞうやま）、大川瀬渓谷がある地区は清水寺（きよみずでら）、立杭（たちくい）を含む県立自然公園になっている。

東条川　1 級河川加古川の支川。篠山市今田町に発し、加東市を経て小野市で加古川に合流する。池尻川を経て武庫川と相野で谷中分水界を持つ。

大川瀬ダム　兵庫県の東播広域水道事業の一つ。川代ダム（篠山市・篠山川）、呑吐（どんど）ダム（三木市・志染川）の三つが一体となって東播地区の農業用水、上水道を供給している。これらの施設は農林水産省が直轄管理を行っている。コンクリート重力式ダム。昭和 45（1970）年着工、平成 3（1991）年完工、平成 4（1992）年使用開始。堤高 50.8m、堤長 164m、貯水量 815 万トン。加古川水系の川代ダムより引いた水を加古川水系の鴨川ダム（東条湖）、山田川の呑吐ダムに地下水道で送水している。大川瀬ダムの建設で上部の大川瀬渓谷が失われた。大川瀬渓谷は白髪岳南麓四斗谷（しとだに）を源流とする四斗谷川が合流する地点を中心に約 3 kmの V 字型渓谷があった。四斗谷は米が 4 斗しか取れなかったことからという。

大川瀬住吉神社　かっては神領地 10 万坪を持つ大社であったが現在は大川瀬の氏神である。本殿は文永 2(1265)年の建立とされ住吉社の中で最古といわれる。国指定重要文化財である。舞殿は県指定文化財である。

つつじヶ丘住宅地(三田ガーデンタウン)　三田ニュータウンと同時期に開発された民間が事業主体となった住宅団地。約 2700 戸。事業主体は大倉建設。平成 2(1991)年オープン。

JR 相野駅　藍本駅の項を参照。